

平成 30 年度第 1 回労働衛生専門委員会
「第 7 回生活環境・職場ストレス調査」結果活用及び今後のあり方について各委員コメント

■委員会 でいただいたコメント

－議題(3)「第7回生活環境・職場ストレス調査」結果の活用及び今後のあり方について－ より

- つくばは人の移り替わりが激しいため、本調査は 3 年に 1 度の頻度で実施した方がいいのではないかと考えている。法定ストレスチェックをもとに各機関同士の情報交換を行ってもよいのではないかと。また、定期健康診断のデータも情報交換できると、つくば固有の問題であるのか否かがわかるのではないかと。
- 飲酒が心身に重大な影響を与えるケースが多いため、調査項目に飲酒を追加してはどうか。
- 本調査の頻度については、3 年に 1 回の方がよいのではないかと考える。
- 内容を吟味していかなければならないと感じている。情報交換会については分科会での議論をもとに有効性のあるテーマを出していければよい。3 年ごとの調査はデータの取りまとめを考えると厳しいのではないかと。回答者側からも意義のある調査にしないと存在意義がない。
- この調査の回答者にとって改善が期待できる、といったメリットがないと意味がない。次回の調査の実施に当たっては、目的を十分に議論してから調査の設計を行うべき。第 1 回調査時は「つくば勤務＝つくば在住」だったが、現在はそのようなことはない等を考慮した時代に合った調査を実施してほしい。
- 人の出入りを見ることができてはいない。個人を特定できる形で次回も追跡できるようにすると有効ではないかと。
- 調査のプロセスを明らかにして、調査に参加できる意義を明確にしたい。
- 調査項目は厳選しなければいけない。今回は web 調査で行ったので業務がかなり簡易になった。ただし回答率が低くなったので、フィードバックの効果が低くなってしまっている。メリットを提案する必要がある。また、課題が解決されたとしても因果関係が分からない仕組みになっている。
- この調査結果を職場に持ち帰り、課題解決に活かしていくとしても、どう活用するかが悩ましい。問題点について対策を打ち改善を行いたいが、この調査では具体的な使用方法が見えづらい。
- 調査結果の活用が難しいが、定点観測としての調査の性質上難しいというのも理解できる。また、資料 5 の p.14 図 3-1 では交通手段の生活環境満足度が平成 18 年度から低くなっている。つくばエクスプレスが開通した後に交通手段の満足度が低下したことがストレスの要因となっていることが窺えるので、掘り下げる価値があるのではないかと。外国人など回答者の多様性や、住居の形態等も要因として考えられる。
- 調査を継続していくことには賛成である。ただ、法定ストレスチェックと重複する部分については削除してもいいのではないかと。得られたデータから提言を行うことができるよう根拠が見えるとよい。また、人間ドック利用者の国保利用者とそれ以外の比較を行うと、便潜血の精査率が高いのが見えた。小さい医院が多く受診しやすいことが想定される。それと比較すると、メンタル関係の医院の予約が一

杯で受診できないという事態も聞いているため、影響があるのではないか。

- 本調査では、依頼を受けた機関にフィードバックを行うなど先進的な取組を行っていたと考える。ただし各機関へ注意喚起を行った場合、注意喚起を受けた側への影響が計り知れず、またノウハウを持たないままデータに触れてしまうと脅しとならないか心配である。調査活動の中で、問題を拾い上げて改善に向けてサポートを行うためのデータ取りを行いたい。
- 法定ストレスチェックを毎年同じ中身で今後続けることに意味があるかは個人的に疑問。意図的にストレスチェックの点数を高めることも可能であるため、今後は工夫していく必要があると考えている。それと比較すると、本調査は意義があると考えますが、無記名のため追跡調査が難しい。健康診断時の問診票を使いストレスチェックに活かすことができないかと考えている。また、健康診断のデータを使用することで項目別・地域性が現れる部分もあるので、可能ならば活用したい。

■委員会後にメールでいただいたコメント

- 生活環境・職場ストレス調査については、ストレスチェックの項目との重複を避け、つくば地域に特化した調査にしたらいかがでしょうか。
- 調査間隔は、取りまとめくださる方の負担を考えて5年で良いかと思えます。
- つくばエクスプレスの開通や公務員宿舎の廃止により、筑波研究学園都市の生活圏はつくば駅周辺から郊外に広がりつつあること、また、つくば市以外からの通勤者も半数程度存在することから、「生活環境」に関する質問のリニューアルが必要なのではないか。（例えば、現在の居住地と比較してつくば市（又は筑波研究学園都市）に不足しているものを聞く。）
- 「海外経験」に関する質問は、他の質問への関連性や、この調査の目的である「心身の健康状態や居住環境」への関連性が見受けられないため、削除しても良いのではないかと。
- 当該調査につきましては、学園都市の生活環境に対する意識の推移や変化を把握することができますので、継続する必要があると考えます。

なお、調査間隔につきましては、3年が良いと考えます。

（理由：同一人物が調査の度に回答するケースがあると思えますが、前回との変化を見て取れる半面、惰性で回答してしまう者がいる場合、結果の信憑性に疑義が生じる恐れがありますが、短いスパンで意識調査を行い、最新の傾向を把握することに意義があると考えます。）